

実践記録（小5・学活）

1 わらい

集団の一員としての自覚を深め、児童相互で協力することの良さに気付くとともに、掃除の効率的な仕方を順序立てて考えることでプログラミング的思考を育成するようにする。

2 手立て

- 手順を考え、状況に応じて対応が変化することを考える活動【手立て1】

掃除の手順を付箋に書き出し、並べ替えることで、フローチャートを作成し、よりよい手順を考えられるようにする。その際、判断が求められる箇所を分かりやすくするために、判断が必要な場所の付箋の色を他の付箋と変える。

- よりよい方法になるよう手順を見直す活動【手立て2】

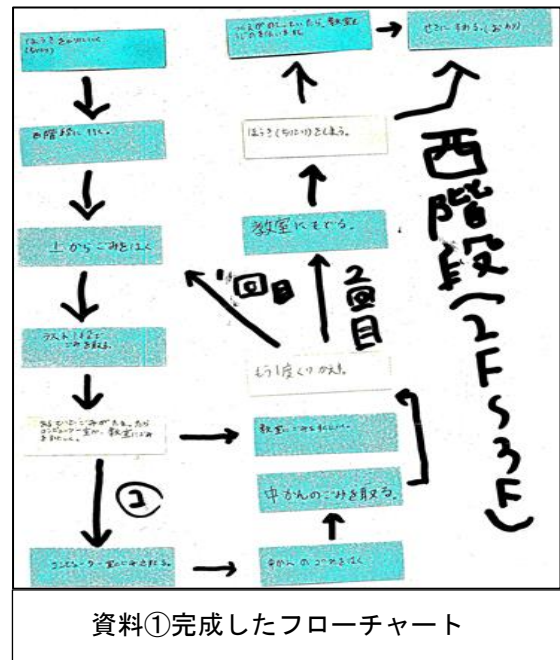
作成したフローチャートを基に、実際に掃除を行い、より効率的で無駄のない流れになるようフローチャートを見直す。

3 実践の様子

今まで掃除の時間では、何をやるのか分からず、呆然と立っている姿や、同じ所ばかり何度も掃除している姿が見られた。そこで、掃除の仕方を手順として捉え、見直すことで、掃除の仕方をフローチャート化し、効率的に掃除を行うことを提案した。生活班ごとに担当する掃除場所を決め、掃除の際の作業や行動を付箋に書き、それをホワイトボードに貼らせた。【手立て1】として、付箋の色は行うべき作業を水色、状況によって判断する行動を黄色とし、班で付箋を並べ替えながら掃除の手順を話し合った。

話し合っって作成したフローチャート（資料①）を基に、指示役とロボット役に分かれ掃除を行った。（資料②）実際に掃除を行う中で、ロボット役が指示通りに動いてくれなかったり、指示が分からなかったりし、フローチャートの通りに掃除ができなかった。その結果を踏まえて【手立て2】に取り組ませた。

児童は、掃除という身近な題材だったこともあり、とても興味をもって取り組んでいた。活発に意見も出しており、掃除の手順を考えようとする



資料②作ったフローチャートを確認しながら実際に掃除を行っている児童の様子

姿が見られた。実際に掃除をしているときには「この場所の作業は他の班と重なってしまうから相談しよう。」と自分たちの班だけでなく他の班とも協力し、よりよい掃除の手順になるよう工夫する姿が見られた。資料③は見直しを繰り返して、作成した掃除の手順である。

4 成果と課題

- 掃除という身近な題材だったのでとても興味をもって課題に取り組んでいた。また、ポスター完成後は以前よりも掃除に熱心に取り組むようになった。
- 掃除の仕方を一覧にすることで一つ一つの指示を、順を追って取り組むことで、手順を整理して取り組むことの良さに気付くことができた。
- 全員が十分に参加できているわけではなかった。「一人一つは付箋を書こう。」「一人一回は発言をしよう。」など全員が参加できる仕組みを作る必要があった。

